

ふるさと 第二の故郷、てっせい

～このまちに僕らの笑顔を届けよう！～

鉄西まちづくり学生推進委員会会長 しみず 清水 るい 塁

私は、生まれも育ちも北海道札幌市です。四季がはっきりしており、過ごしやすく（冬の寒さ、雪には時折苦労することもあります）私はとても愛着を持っています。私以外の人もこの札幌というまちに住むと、その魅力に惹かれるのではないのでしょうか。しかし、それがさらに小さな単位、つまり、地区や町内会レベルになると話は変わってくるのではないのでしょうか。森を見て木を見ずと言いましょうか、なかなか関心が持てないという人が多いように思います。

私が北海道大学に来てもうすぐ四年目を迎えます。当初想像していた学生生活とは異なる生活を

送っていますが、とても充実しています。その大きな要因の一つがサークル活動です。そこで、私たちはこのサークル活動において、「鉄西まちづくり学生推進委員会」という団体を立ち上げました。

「鉄西まちづくり学生推進委員会」は北海道大学・藤女子大学・天使大学及びその他近郊の大学、専門学校の学生を中心に約50人で構成されています。私たちの活動拠点は文字通り「鉄西(てっせい)」と呼ばれる地域です。この地域は札幌駅北口から南は北12条通まで、東は創成川通から西は石山通までをエリアとしており、北大キャンパスが含まれています。そして、札幌駅に近いことから、マ



札幌もりもり!! もっこり祭ステージ



丸太押し相撲



もっこり祭での料理教室



YOSAKOI 演舞



鉄西夏祭りでの餅つき



鉄西夏祭りの1コマ



北九条小生と地域安全マップづくり



道路の愛称・シンボルマークの設置

ンション世帯が多く存在しています。近年の特徴として、地域における世代間交流の減少という問題点が指摘されています。この地域も例外ではなく、学生は他の世代の人と関わろうとしていなかったのです（というよりは関わられる場所がなかっただけなのかもしれません。）

しかし、この鉄西地域は大学のキャンパスが含まれているという良い立地条件にあり、また、地域の方は非常に鉄西を盛り上げるために積極的で、そこに北九条小学校の先生・保護者の方々・生徒のみんな、鉄西まちづくりセンターの山田修嗣所長を始め、さまざまな人々の力が加わり、他の地域よりもアツい何かがありました。

「これを活かさない手はない!」「私たちのお世話になっているこの地域に恩返しをしたい!」「この鉄西地域をみんなの第二の故郷にしたい!」という想いから、当会は発足し、今年で2年目を迎えました。

では、次に私たちがどのような活動をしている

かをご紹介します。私たちの活動のメインとも言えるのが、昨年9月20日の土曜日に行われた、「札幌もりもり!! もっこり祭」というイベントです。

これは毎年秋に私たちが企画から運営まで全てを自分たちの手で行う秋祭りのことです。自分たちで、と言いましたが、実際にはまちづくりセンターの山田所長を筆頭にさまざまな方に支えられて、私たちの手で運営が行えています。このお祭りでは、普段地域において活躍されている団体の方を呼んだり、YOSAKOIの演舞を披露したりします。また、毎年夏に私たちは北海道各地のお祭りに参加させていただき、そこでお祭りが地域にもたらすもの、雰囲気、地域活性化とは何かを知り、お祭り運営のノウハウを学ぶのです。そこで知り合った方々に、私たち主催の「もっこり祭」に来ていただき、出店などをさせていただきました（札幌市外から平成20年は、標津町・中川町・沼田町・北村・帯広市の方々に出店をいただき、YOSAKOIでは旭川市・名寄市から参加していた



インドネシア警察が地域住民と対話

だきました。) その他各種企画を用意し、どのようにすれば地域の方に楽しんでもらえるだろうか、ということ念頭において、夏から準備に取り掛かりました。

準備期間はありましたが、どうすれば地域の方が喜んで参加してくれるのか、そのためには何をすればいいのか、分からないことが数多くありました。しかし、地域の方々に連日協力していただき、当日は晴天に恵まれ、1,500人近い来場者の方に来ていただきました。「楽しかったよ」「来年もまた来るね」その言葉をかけてもらうだけで、私たちは満足でした。やって良かったと確信しました。しかし、その一方で、このお祭りはまだまだ発展途上で、来年に向けて数多くの改善点も浮かび上がりました。来年はさらに地域の方と密着したお祭りをしていければと思っています。

このお祭り以外にも、北九条小学校との交流イベントや夏祭りのお手伝い、安全ボランティア、安全マップ作りなどさまざまな形で地域の活動に参加しています。

このような機会を通して、若い力がまちに与える影響はその若さ・エネルギーだけではなく、その可能性にあると思います。私たちは地域の方から人生経験やノウハウ。人とのつながりの大切さというのを教えていただく代わりに、私たち学生にしかない勢いと若さを体と時には頭を通して地域に還元しているのです。

今年は、この鉄西地域に「青年部」が数十年ぶ



北九条小安全ボランティア

りに復活し、私が青年部長となりました。地域の方には、もうここは学生さんがいなければ成り立たない地域になった、と言っていたことがあります。こんな嬉しいことはありません。これからもますますこの鉄西が盛り上がっていくことを地域の方と一体になって考えていき、誰もが愛着の持てる素晴らしい地域にしていけたらと思います。

現在の風潮では、「一生懸命」「必死」ということが恥ずかしがられる傾向にあり、規模の小さなことより、大きなことをするのがカッコイイと言われる風潮があるように感じます。

私は一生懸命やる姿、必死な姿こそ人の心を動かすものだと思います。確かに大きなことをやるのは難しいかもしれませんが、しかし、泥臭くてもいい、小さなことかもしれませんが、何か達成したいことに向かって、ある地域を盛り上げたいという思いから私たちの生活環境、そして北海道、日本、世界は変わっていくのではないのでしょうか。私はそう信じたい。



町内会の役員として学生が参加